

仙台陣屋 かわら版

曜日 8月10日(日)
場所 仙台陣屋資料館
時間 13時00分～
16時00分
予約 必要ありません
料金 無料です

史跡と資料館を全身で楽しむイベント「陣屋の日」を、今年も8月10日(日)に開催します。親子で参加でき、ここでしか体験できない企画がいっぱいあります。ちょうど今年は日曜日ですので、ご家族でいっしょに参加してください。たくさんのご来場をお待ちしています。

「陣屋の日」で思い出作り!!



涼しい館内でお茶を楽しむ(左上)
伝統芸能 虎杖浜越後盆踊り(左下)
汗まみれで焼くせんべいが美味しい(右)

第110号

(平成26年8月号)

発行: 仙台藩白老元陣屋資料館

〒059-0912 白老町陣屋町 681-4

TEL&FAX 0144-85-2666

イベント紹介

○せんべい焼き(炭火で焼いたせんべいを味わおう)

○乗馬体験(ホース愛好会が、可愛いポニーを連れてきてくれます。希望者には、よろいを着てのヤブサメ体験もあります)

○お点前体験(茶道の先生が、お抹茶の点て方を教えてくださいます。もちろん、先生が点てたお茶をいただく呈茶もあります)

○陣屋のクイズラリー(クイズを解きながら白老の歴史を学びます。この日だけの記念品をゲットです)

○越後盆踊り(白老の伝統芸能、虎杖浜で伝えられてきた新潟の盆踊りのメロディが、今年も史跡に響きわたります)

*他にも色々な企画があります

絵馬展がいよいよ開幕です

町制60周年と資料館開館30周年を記念する展示会がいよいよ開幕となります。8月2日(土)～31日(日)までの開催です。太平洋岸各地の自治体や神社にご協力をいただき、39点もの貴重な資料を展示することが実現しました。江戸時代の北海道の様子や、暮らしていた人々の足跡を知るための資料は、何も古い書物ばかりではありません。今回、資料を探す過程で、改めてそれを実感できました。また、絵馬をはじめとする奉納品においては、記録することを第一に書かれた資料からは普通感じられない、人間味あふれる雰囲気に触れることができます。白老町の文化財である四季歌の額は、白老で商いをしていた野口又蔵をはじめ数十名が、わざわざ詩の形で祈りを表しています。2m近い額面いっぱいのは俳句が必見の資料です。



＜白老町指定文化財の「扁額 四季歌」＞

三好先生の訪問。そして…

三好監物侯のご子孫で、仙台市内で耳鼻咽喉科を經營されている三好彰先生が、今年も陣屋資料館へ来訪されました。先生は白老との縁をとて大切にされておられ、お忙しい中でも常に子供たちの健康を気づかって下さっています。そして、今年には不思議な出会いがありました。同行の女性のお一人が史跡の赤松から彫られたコケシを見るなり「おじいちゃんのコケシだ」と呟いたのです。宮城県の遠刈田にお住まいだった佐藤哲郎氏に彫っていたいただいた作品ですが、目元や胴部の模様の特徴から解ったそうです。佐藤氏には、平成13年の仙台市との姉妹都市提携20周年を機会にお世話になりました。改めて人の縁の妙に立ち会った瞬間でした。



▲祖父の作品と撮影。目元がそっくり？

6月25日、札幌市立鼻山小学校の子供たちが職業体験に来ました。子供たちには館内案内を行ったほか、史跡パトロールと切手の整理体験をしてもらいました。ただ保管するためだけでなく、どこに何がどれだけあるか解るようにしておく大切な作業です。まず値段で分類し、次に年代順で並べました。いざ始めてみると「7+3円」と値段が書かれた切手など、どう分類するか考えなければいけない場面もありました。

簡単にメールが送れる今の子供たちにとって、切手は馴染みが薄くなっています。しかし今回の体験では、あえて馴染みが薄い物を使うことで、日常生活の道具が変わってきた事実に触れ、またどのような変化があったかに触れることができたのではないのでしょうか。切手には、歴史的・美術的価値もあります。今回の体験は資料を探す難しさと資料を残す大切さに加え、郵送手段の変化と歴史について考える機会となりました。

子供たちの学芸員体験

「仙台陣屋かわら版 110号(平成26年8月号)」

発行日:平成26年7月24日(木)

発行所:仙台藩白老元陣屋資料館 担当者:平野・亀井

<http://www.town.shiraai.hokkaido.jp/bunka/jinya/>

Mail: jinya@town.shiraai.jp

TEL:022-6200000